

第2期輪島市子ども・子育て支援事業計画パブリックコメント対応について

番号	意見内容（要約）	対応案	検討結果
1	児童クラブの先生の人数・入所率・定員数を入れてはどうか。	保育所（園）の入所状況等と同じ形で児童クラブの利用状況を掲載しました。	○
2	児童クラブの体育館利用や広めの部屋が使えるようにしてほしい。	計画の中に掲載する項目ではないので、反映はしていません	×
3	適応指導教室の利用状況を入れてはどうか。	教育委員会の事業であり、計画には反映をしていません。	×
4	適応指導教室がどんな子でも行けるような施設になってくれるとよい。	担当課と連携しながら検討していければと思います。	×
5	ファミリーサポートセンターが使いづらい。子どもがよく利用する児童センターなどで1時間でも預かってくれるようなサービスがあるとよい。	ファミリーサポートセンター事業は国の制度に基づいてサービスを実施しています。サポート会員が児童センターなどで預かることであれば可能かと思えます。	×
6	基本理念の笑顔に対応する施策がない。施策に楽しそうな方向性が欲しい。	今回の計画の方向性として、すでに他計画で策定されている母子保健や教育などの分野を省いて、きめ細かな支援・切れ目のない支援に重点を置いた施策体系としているため、学校や遊びという面の子育て支援施策については大きく取り上げていません。ただ、これらの支援と、他計画と連携しながら子育て支援を進めることで、すべての子どもが笑顔になれることを目的としており、基本理念についても変更はありません。	×
7	プロのスクールカウンセラーは輪島市にいないのか。	プロのカウンセラーについては配置していません。今後は国の状況や、保護者のニーズを踏まえて、配置の検討をしていきます。	×
8	スクールカウンセラーの項目があってもよいのではないか。	計画の視点2の図の中にスクールカウンセラーを追加しました。	○
9	ラインで相談できるようにしてほしい。	今後の事業実施の参考とさせていただきます。	×
10	ガードレールや歩道の整備をしてほしい。（特に日産のあたりからふれあい健康広場）	既に安全な道路の整備については施策に盛り込んでいます。具体的な危険箇所については、担当課に伝えて対応を図ります。	×
11	支援の充実と書かれているが、そうは思わない。子どもが伸び伸びと過ごせるような教育環境になれば、充実していると感じる。（里山里海学校や森のようちえんなど）	教育環境については、担当課と連携を図りながら充実を目指します。また、自然教育についても施策の中に取り上げているため、そこで反映していることとします。	×
12	妊産婦の時期をすぎると、親の勉強する場がない（耳に入ってこない）ので、母親に対する講座を開いてほしい。	今後の取組の中で検討していければと思います。	×
13	市民の活動や子育て支援に関する情報がまとまって見れるスポットをたくさんつくってほしい。またインターネットを通じた配信などもしてほしい。	情報発信の充実ということは計画内で掲載しています。具体的にどうしていくかについては、ご意見も参考にしながら進めてまいります。	×
14	放課後子ども教室の案内がこないのではなかなかいけない。	情報発信自体は行なわれておりますが、今後さらに充実していければと思います。	×
15	自然教育について、具体的な動きがあれば教えてほしい。	具体的な施策は現在のところありませんが、自然体験等により子どもの健やかな育ちに資するように努めていきたいと考えています。	×
16	幼児の遊具が減っているので、小さい子供が遊べる環境を整備してほしい。	担当課と連携しながら検討していければと思います。	×
17	森の中に木製アスレチックや、ハイキングマップなど山側で快適に遊べる場がほしい。	今後の事業の参考といたします。	×
18	中高生向けに児童館併設とかでもよいので音楽スタジオがあるとよい。	今後の事業の参考といたします。	×
19	切れ目のない支援をもっと子どもが大きくなるまでしてほしい。	切れ目のない支援としては、子ども家庭総合支援室を中心に関係機関と連携しながら、中学校に入っても継続的に行っていきます。	×

20	アンケートをもっとするなど、市民の声を拾う取り組みをしてほしい。	アンケートに限らず、直接市民の皆様の声を拾える機会を設けるように努めます。	×
21	情報発信をわかりやすく、たくさんしてほしい。	発信方法の検討を行いながら、今後充実に努めます。	×
22	子ども子育て会議ですがいつもみんな面識のない方も多く話しにくいとの意見が出ており、グループごとにワークショップ形式で話し合うなどの会議の仕方もありなのではないかと思う。	今回の計画策定における会議では実施できませんでしたが、今後の会議の仕方として参考にさせていただきます。	×
23	産後ドゥーラを増やしたり、資格取得への助成をしてほしい。	今後の事業の参考といたします。	×
24	教育の選択肢の幅を広げるようにしてほしい。	行政として教育方針を個々の保育所や学校に定めることは困難であり、そのような方針を持った私立の園や学校の誘致等についての計画もありません。また講師を呼んでの研修機会などについては、今後の事業の参考といたします。	×
25	小中学校の教育課程に年〇時間以上体験学習をするというような取組を導入してほしい。	今後の事業の参考といたします。	×
26	図書館の中に地域情報フロアや不登校児童支援・相談窓口の併設などをして、図書館を核としたまちづくりをしてほしい。	今後の事業の参考といたします。	×
27	病児保育の利用のハードルが高い（事前申し込み、朝の診察、料金など）。かといって祖父母などに頼ることもできないので困っている。部分休暇などの子育てのために仕事を休める制度や、子どもが慣れている場所での預かりをしてほしい。	病児保育については、病気のお子さんを預かることから、事前の申込や診察が必要となります。事業内容の改善につきましては今後検討していきます。働く環境については担当課と連携しながら、改善できるよう事業所に働きかけを行っていきます。	○
28	対象が10歳くらいまでなのはおかしい。一番難しい10～18歳の子どもへの支援が手薄である。	子どもへの支援としては、中学校に入っても継続的に行っていきます。ただし、この計画として取組を記載するのは、乳幼児期と小学校期についてということになっているため、その後については関係機関と連携しながら、切れ目なく支援ができるような体制を作っていきます。計画の中では見せ方を少し変更して、切れ目のない支援としては18歳までが対象であることがわかるように変更しました。	○
29	「地域における子ども・子育て支援の充実」部分 小学校・図書館・公民館・地域及び市民等と協力・連携しながら、様々な交流機会や、子どもや子育て家庭が集う施設などの地域資源を活用し、子育て支援の充実を図ります。	文言の追加を反映しました。	○
30	子どもと子育て家庭に対する支援が混ざっている。家庭が機能不全になっていたたり、親のいない子どもにもダイレクトに届く支援をしてほしい。	今回の計画の方向性は「様々な家庭へのきめ細かい支援」、「地域における子ども・子育て支援」、「子育て支援の環境整備」の3本柱としており、子どもと家庭という視点で見ると混在はしています。ただし、3つの柱建てとしては整理ができています。今回の計画ではこのままこの施策体系で策定します。個々の家庭が抱える複雑な問題については、計画として一律に対応していくことはできないため、ケースに応じてその家庭にとって最善の支援ができるように努めます。	×
31	子どもの側からの愛着形成支援もしてほしい。	乳幼児にとって、親が愛着を持って接することが子どもから親に対する愛着を形成する上でも大事だと考えているため個別で施策を立てずに対応します。	×
32	図書館に関する施策を入れてほしい。	図書館の機能を充実させる施策を追加しました。	○
33	児童センターについて触れることと、体制の充実を図ってほしい。	児童センターの充実に関する施策を追加しました。	○